

# 早雲だより

2023.12.20  
第162号  
歴史グループ早雲

## 第二七八回 歴史ハイキング 報告

信長の聖地『安土』を訪ね、

城址と城下町を探索する

2023年11月26日(日)

はじめに

朝方の冷え込みは厳しかったものの好天に恵まれた一日となりました。JR琵琶湖線安土駅に集合しました。参加者は22名です。

今回は早雲スタッフの入江さん、金澤さんに準備していただきました。

安土といえば先ず絢爛豪華な天主閣を待つ「安土城」を思い浮かべる方が多いと思います。今回は城下町を散策しながら安土城址を目指しました。城下町散策では織田信長が整備させたといわれる下街道(後の「朝鮮人街道」)を部分的に辿りました。豊富に湧き出る湧水地を巡り、琵琶湖水運の港跡も行きました。

城下町見学の後は、安土城跡を天主跡までの班と

「信長の館」見学の班に分かれて行動しました。最後は安土駅で合流しハイキングを終了しました。

散策コース

- ① 安土駅→安土城郭資料館→梅の川→音堂(おとんど)川湧水→常浜(じょうはま)水辺公園→北川湧水→朝鮮人街道の石碑→(朝鮮人街道を歩く)→セミナリヨ跡→東家→新宮大社→白々橋→安土城址入口(風食)
- ② コースに分かれました。
- ① 大手道→天主跡→摠見寺→安土駅。
- ② 城跡「信長の館」→沙沙貴神社→旧伊庭家住宅→安土駅

## 散策ガイド

安土城郭資料館

内部まで精巧に復元した20分の1の安土城の模型など展示。



(写真) 資料館内



(写真) 天主模型

湧水 音堂川・梅の川

常楽寺には「湧水地」が3ヶ所あり、今も清水が湧き出ています。信長の家臣、武井夕庵が、難波より珍茶を求め、梅の川の水を使って献上したところ、信長がたいそう気に入り、この地で茶会を催すときは好んで梅の川の水を用いたと伝えられています。



(写真左右とも) 梅の川



## 音堂川湧水

音堂川の湧き水は、愛知川の伏流水で、年間を通じて殆んど水温が変わらない。地元の人々の生活用水として野菜を洗ったり、スイカを冷やしたり活用されています。昔ながらの風景が今に残されています。



(写真) 音堂川湧水

## 木村城跡(推定地)

代々、沙沙貴神社の神主を務めた佐々貴山公の支流である木村氏の館跡。佐々木六角氏の時代、常楽寺港の管理などに当たっていたと考えられます。

## 常浜水辺公園

常の浜、常楽寺港ともいう。室町時代(15世紀)には、観音寺城の外港として栄えた港で、昭和の初め頃まで琵琶湖を周航する蒸気船寄港地として活気にあふれていました。



(写真) 常浜水辺公園



(写真) 北川湧水

## セミナリオ跡伝承地

天正8年(1580年)、織田信長がイタリア人宣教師オルガンチノに新しい埋め立て地を与え、東西文化交流となる日本で最初の神学校を建設。天正10年(1582年)の本能寺の変後、安土城炎上と共に焼失。現在は伝承地が史跡公園となっています。



(写真) セミナリオ跡伝承地

## 安土城跡

5層7重の天守をもつ近世城郭の先駆けと言われる安土城。天正7年(1579年)の築城からわずか3

年で焼失し、幻の名城となった。石垣だけが面影を残すが、発掘調査が進み、当時の姿が明らかになってきている。



(写真) 城跡天主跡

## 「安土天主 信長の館」

スペインセビリヤ万国博覧会(平成4年)出展された安土城天主の最上部5・6階部分の復元を、博覧会終了後に解体移築し庇屋根金箔約10万枚貼りの外壁5階部分の天井、最上部大屋根を増設し展示しています。

残された資料が少なく、幻だった安土城は、近年、日本建築史学における第一人者故内藤昌昌氏の「天主指図」発見により復元監修され、発掘された金箔瓦とともに展示されています。

## 沙沙貴神社

古代の豪族「狹狭城山君」と近江源氏「佐々木氏」の氏神として広く敬拜されている神社。平安・鎌倉神社の建築様式を継承して、江戸時代に再建された大型木造建築8棟は県指定文化財です。また「なんじゃもんじゃ」や「うらしま草」な



(写真) 惣見寺三重塔

どの珍しい花が咲く「近江百華苑」として親しまれています。

(解説は「近江八幡観光物産協会」発行のパンフレット等から転用しています。)

## 一口感想

K・M

ずっと以前、歴史ハイキングで、息を切らして石段を登り天守跡を見に行ったことがあり、今回の午後からのコースは、安土城天守の最上部5階と6階部分が原寸大に復元されている「信長の館」を見に行きました。さすが「信長の城」とため息が出るほどの豪華絢爛さ・・・内部の障壁画も見事に復元されていました。築城後わずか3年で焼失したというこの城が、復元されるというのは、どれだけ資料考察がなされたことでしょうか。それよりも何よりも、これだけ立派な城を、

焼き滅ぼしてしまったことが

勿体ない、そればかり思ってしまうました。「信長の館」見学だけでは時間が余り、沙沙貴神社を訪ねることになり、のどかな田畑の中の一本道をウォーキング。途中、ウォーリス建築の立派な旧伊庭住宅を眺め、石仏さんの並び姿に手を合わせたしなごらドン

ドン歩きました。結局、城址を見学のグループより遅い到着となり、半数の方たちは帰られていましたが、帰りの予定の電車には乗れたのでした。城址見学グループの方は随分頑張られたのだと思いました。今日も色々とお世話いただきありがとうございます。

◇◇◇◇

M・O

安土城跡を歩くことができました。実は『信長の館』に行くコースとどちらがいいか迷ったのです。お天気がよかったですで歩くコースにしました。大手道の石段には、所々に石仏が石材に転用されていて

て驚きました。信長の評価

については意見のわかれるところですが、自分で見て歩いて気づくことも多いと思います。企画してくださった方、案内してくださった方に感謝いたします。

◇◇◇◇

Y・M

JR安土に着いてすぐ安土城郭資料館に入った。そこで安土城の復元CGを見学した。立派なつくりで驚いた。その後安土城に登ったがそれだけで大変だった。その頂上に巨大な城郭があったとは信じられない。どのようにして建てたのだろう。復元のCGもよいが、建築途中のCGが見たいと思った。

あの登るだけでも大変な場所に、どのようにしてあの巨大な城郭が築かれたのか？穴太衆？の技術がしりたかった。

◇◇◇◇

H・M

安土は我が彦根に近く、何回も訪れているが、町のあちこちで年中水温が変わらい伏流水の湧水が生活用水として利用され、きれいに清掃され、維持・保存している。さらに、近江守護職佐々木六角氏や織田信長も利用した琵琶湖への水路と港址、また、昭和初期頃まで琵琶湖を周遊する蒸気船の寄港地となっていたようで、今回の安土城下町の探索で初めて知った。

午後からの安土城の登城は、数年前に訪れた時とは比べものにならないくらいしんどく、疲れました。さすがに、八十路を過ぎることにこたえます。

それでも、素晴らしい好天に恵まれ絶好のハイキング日和となり、存分に楽しませて頂きました。

(写真) 朝鮮人街道石碑



## 【編集後記】

K・Mさんの感想で「信長の館」へ行かれたグループの様子が分かりました。皆さんの感想から楽しんでいただいた様子が分かりました。良かったです。

安土城の建設中の様子が知りたいとのこと。映画で「火天の城」(西田敏行主演)があります。小説『火天の城』(山本憲一)の映画化です。参考まで。

皆さまあめがっけいになりました。